【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成30年5月17日(2018.5.17)

【公表番号】特表2017-511197(P2017-511197A)
【公表日】平成29年4月20日(2017.4.20)
【年通号数】公開・登録公報2017-016
【出願番号】特願2016-562511(P2016-562511)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｃ　5/50　(2017.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｃ　5/04

【手続補正書】
【提出日】平成30年3月29日(2018.3.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
概して、本体１１、カートリッジ１２、プラグ１３及びノズル１５は、ポリマー材料製であってもよく、また、射出成形により製造されることが好ましい。好ましいポリマー材料は、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリカーボネート、ポリオキシメチレン及びポリアミドである。しかし、当業者は、これらから製造される個々の部品の必要条件に応じて、他のポリマー材料を認識するであろう。カバーシート１４又は第１及び第２のカバーフィルム１４ａ、１４ｂは、金属層（好ましくはアルミニウム層）と組み合わされて、少なくとも、ポリエチレン又はポリプロピレン層製であってもよい。本発明の実施態様の一部を以下の項目［１］－［１４］に記載する。
［項目１］
歯科材料を混合及び分注するためのカプセルであって、
－前端部及び後端部を有し、かつ長手方向軸線に沿って延在する本体を備えており、
－前記本体は、本体前壁と、前記本体前壁から前記長手方向軸線の寸法で突出している本体側壁とを形成しており、
－前記本体前壁及び前記本体側壁は組み合わせられて、前記後端部から前記本体前壁に向かって前記本体内に延在する空洞部を形成しており、
－前記空洞部は、前記本体前壁を通る排出口内に融合されており、かつ前記後端部に近接する液体容器によって閉鎖されており、
－前記本体と前記液体容器とは組み合わせられて、前記歯科材料の第一の成分を含有する混合チャンバを形成しており、
－前記液体容器は、
○カートリッジの前壁及びカートリッジの側壁によって形成され、かつ後部開口部を有するカップ型カートリッジと、
○前記歯科材料の第２の液体成分を押出すように、前記後部開口部を介して、前記カートリッジ内部に移動可能に連結させたプラグとを備えており、
○前記カートリッジは、前記第２成分を前記混合チャンバ内に放出するように前記カートリッジの側壁を貫通して延在するチャネルを更に有しており、
－前記本体側壁は、作動位置において、前記チャンネルと前記混合チャンバとの間に流体連通を確立するような寸法の凹部を内側に有しており、
－前記作動位置は、前記長手方向軸線に沿った寸法内で、前記カートリッジと前記本体

との互いに対する第１及び第２の軸線方向位置のうちの前記第２の軸線方向位置に対応しており、
－前記第１の軸線方向位置は、前記チャンネルが前記凹部からオフセットしている非作動位置に対応しており、
－第１のカバーフィルムは、前記カートリッジと前記プラグとの間の前記接合部を封止しており、
－前記チャンネルは、少なくとも前記非作動位置において、第２のカバーフィルムによって開放可能に封止されている、カプセル。
［項目２］
前記非作動位置において、前記第２のカバーフィルムは、前記本体側壁により機械的に支持されている、項目１に記載のカプセル。
［項目３］
前記第２のカバーフィルム及び前記カートリッジは、前記チャンネルを取り囲む領域において封止するように連結されている、項目１又は２に記載のカプセル。
［項目４］
前記連結は、予め定められた破断点を形成する、項目３に記載のカプセル。
［項目５］
前記第１及び第２のカバーフィルムは、同一のカバーシートの部分により形成される、項目１～４のいずれか一項に記載のカプセル。
［項目６］
前記カバーシートは、長手方向軸線を中心とした前記液体容器の周囲で円周方向に延在しており、かつ前記カートリッジ及び前記プラグと共に円周方向に封止される、項目５に記載のカプセル。
［項目７］
前記カバーシートは、少なくとも１つの高分子層と金属層とを含み、かつ環状スリーブとして形成される、項目５又は６に記載のカプセル。
［項目８］
前記第１及び第２のカバーフィルムは、前記カートリッジと共にモノリシックで形成される、項目１～４のいずれか一項に記載のカプセル。
［項目９］
前記第１のカバーフィルムは、前記長手方向軸線を中心とした円周方向に延在し、前記プラグと共に円周方向に封止される、項目８に記載のカプセル。
［項目１０］
前記第１のカバーフィルムの少なくとも一部分は、蛇腹式ホースに対応する、項目１～９のいずれか一項に記載のカプセル。
［項目１１］
前記歯科材料を分注するためのノズルを更に有する、項目１～１０のいずれか一項に記載のカプセル。
［項目１２］
前記ノズルは、分注位置と貯蔵位置との間で移動可能であり、前記分注位置では、前記ノズルは前記排出口に流体連通され、前記貯蔵位置では、前記ノズルは前記排出口を閉鎖する、項目１１に記載のカプセル。
［項目１３］
前記混合チャンバの内部に粉末を含んでおり、前記粉末及び前記液体は、組み合わされて硬化性歯科材料を形成するように適合されている、項目１～１２のいずれか一項に記載のカプセル。
［項目１４］
前記本体は、ディスペンスガン内で前記カプセルを保持するためのつめを備える、項目１～１３のいずれか一項に記載のカプセル。
【手続補正２】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
歯科材料を混合及び分注するためのカプセルであって、
前端部及び後端部を有し、かつ長手方向軸線に沿って延在する本体を備えており、
前記本体は、本体前壁と、前記本体前壁から前記長手方向軸線の寸法で突出している本体側壁とを形成しており、
前記本体前壁及び前記本体側壁は組み合わせられて、前記後端部から前記本体前壁に向かって前記本体内に延在する空洞部を形成しており、
前記空洞部は、前記本体前壁を通る排出口内に融合されており、かつ前記後端部に近接する液体容器によって閉鎖されており、
前記本体と前記液体容器とは組み合わせられて、前記歯科材料の第一の成分を含有する混合チャンバを形成しており、
前記液体容器は、
カートリッジの前壁及びカートリッジの側壁によって形成され、かつ後部開口部を有するカップ型カートリッジと、
前記歯科材料の第２の液体成分を押出すように、前記後部開口部を介して、前記カートリッジ内部に移動可能に連結させたプラグとを備えており、
前記カートリッジは、前記第２成分を前記混合チャンバ内に放出するように前記カートリッジの側壁を貫通して延在するチャネルを更に有しており、
前記本体側壁は、作動位置において、前記チャンネルと前記混合チャンバとの間に流体連通を確立するような寸法の凹部を内側に有しており、
前記作動位置は、前記長手方向軸線に沿った寸法内で、前記カートリッジと前記本体との互いに対する第１及び第２の軸線方向位置のうちの前記第２の軸線方向位置に対応しており、
前記第１の軸線方向位置は、前記チャンネルが前記凹部からオフセットしている非作動位置に対応しており、
第１のカバーフィルムは、前記カートリッジと前記プラグとの間の前記接合部を封止しており、
前記チャンネルは、少なくとも前記非作動位置において、第２のカバーフィルムによって開放可能に封止されている、カプセル。
【請求項２】
前記非作動位置において、前記第２のカバーフィルムは、前記本体側壁により機械的に支持されている、請求項１に記載のカプセル。
【請求項３】
前記第２のカバーフィルム及び前記カートリッジは、前記チャンネルを取り囲む領域において封止するように連結されている、請求項１又は２に記載のカプセル。
【請求項４】
前記連結は、予め定められた破断点を形成する、請求項３に記載のカプセル。
【請求項５】
前記第１及び第２のカバーフィルムは、同一のカバーシートの部分により形成される、請求項１～４のいずれか一項に記載のカプセル。
【請求項６】
前記カバーシートは、長手方向軸線を中心とした前記液体容器の周囲で円周方向に延在しており、かつ前記カートリッジ及び前記プラグと共に円周方向に封止される、請求項５に記載のカプセル。
【請求項７】

前記カバーシートは、少なくとも１つの高分子層と金属層とを含み、かつ環状スリーブとして形成される、請求項５又は６に記載のカプセル。
【請求項８】
前記第１及び第２のカバーフィルムは、前記カートリッジと共にモノリシックで形成される、請求項１～４のいずれか一項に記載のカプセル。
【請求項９】
前記第１のカバーフィルムは、前記長手方向軸線を中心とした円周方向に延在し、前記プラグと共に円周方向に封止される、請求項８に記載のカプセル。
【請求項１０】
前記第１のカバーフィルムの少なくとも一部分は、蛇腹式ホースに対応する、請求項１～９のいずれか一項に記載のカプセル。
【請求項１１】
前記歯科材料を分注するためのノズルを更に有し、
前記ノズルは、分注位置と貯蔵位置との間で移動可能であり、前記分注位置では、前記ノズルは前記排出口に流体連通され、前記貯蔵位置では、前記ノズルは前記排出口を閉鎖する、請求項１～１０のいずれか一項に記載のカプセル。